

こんなの見つけちゃったんですけど、ホントに買えるんですか？ もっちりん、乗ってナンボの ヴィンテージバイク!!

某月某日、「1890年代っていう自転車見てきたよ」と、某カメラマン。しかも、「撮影用小物のレンタルショップに年代物の自転車がいっぱいあってさ、売ってもいいらしいよ」と続いた。自転車はサイクルショップ、ましてヴィンテージ自転車となればそれなりの専門店じゃないと……という固定観念をあっさり拭い去るような情報が飛び込んできた。ホント……半信半疑で確認電話。そして目黒駅近くにある

EASE NYへ。そのヴィンテージ自転車たちは、広いレンタルショップの一角に何食わぬ顔でズラリと並んでいた。「数が増えちゃって家に置くスペースもないし、ここで活用してもらえればいいなあと思ってね」と、EASE CLUBディレクターの中瀬純一さん。ここに並んでいるすべての自転車の持ち主である。これって売ってもいいって本当ですか？「ええ、欲しいという人がいれば、どれでも売りますよ。全部、乗れますから」……これぞヴィンテージ・スクープである。

まずはこのページの写真を見てもらおう。1890年代に作られたという超ヴィンテージな、イギリスはBSAのロードレーサーである。基本的には現代のモノとほとんど変わらないこの自転車が、100年以上も前のモノであるということに驚かされるが、実は「1890年代製」というのは、自転車の歴史を振り返ると意義深い。17世紀とも言われるそ

の原型の登場以降、少しずつ変化してきた自転車は19世紀の終わりに劇的な進化を遂げる。1879年、後輪をチェーン駆動する自転車登場。1885年、ダイヤモンド型フレーム登場。1888年に空気入りタイヤが実用化……わずか10年の間に起った劇的な変化のすべてを素早く取り入れ、美しいフォルムにまとめあげているのがこの自転車なのである。

しかもロードレーサー……ツール・ド・フランスの第1回目が1903年……もしかしたら、そこに参加したかも。ホントに売っちゃっていいんですか？「28インチは僕が乗るにはちょっと大き過ぎるんですよ」……スクープでしょ！

1890's B.S.A RACER

(イギリス) 価格43万円

中瀬さんも「この時代のモノは今まで2台しか見たことがない」と言う1890年代製、イギリスはBSAのロードレーサー。後に「レッドスター」に代表されるオートバイメーカーとして一世を風靡したBSAが、オートバイ以前に作っていたモノ。ハンドルグリップとフェンダーは何とも味のある木製。ハンドルはセンター部分で角度を変更でき、高さ調整できる。フロントホークに付いている大きなネジは、ステアリングダンパーの調節用。この時代で、路面に応じて調整できるステアリングダンパーが付いているのに驚く。



ギアに付いているBSAのロゴがカッコイイ。クランクの脇に小さなビスがあり、これには油を差した。登場して間もないダイヤモンドフレームを採用した美しいフォルムは、現代の街中にも違和感なく溶け込む。現代より一回り大きい昔仕様のサイズで28インチあり、シート位置もかなり高めなので乗りこなすにはそれなりの身長が必要である。





憧れの大先輩に会う前の緊張感とワクワク感を胸に、銀座みゆき通り沿いの高架下へと向かう。大先輩と言っても、学校の先輩でも、仕事の先輩でもない。人生の大先輩である。インターナショナルアーケードを入りてすぐ、小さなお店の主の椅子に腰かけて、その人、吉田克幸氏は柔和な笑顔で若輩者を迎えてくれた。

PAWN SHOP

店のオープンは2010年4月1日。長年に渡り、国内外で氏が集めてきたお宝を並べた店の名前は、アンティークショップでもヴィンテージストアでもなく、質屋を意味する「PAWN SHOP P」である。

「僕は1960年代の後半に、ニューヨークに入ったんですよ。そのタウンの小さな道が絡み合うようなところに、質屋があつてね。そこを通る度に、その店の中を子供のように覗いていたの。ジジイになったら、そういう小っちゃい店をやりたいなつていうのが、何十年来の夢でね。だから、迷う事なしに「PAWN SHOP」。

いた時代である。「ニューヨークに入ったのは、20歳の頃。特別、古いモノに興味があつたんじゃない、金が無かつた。当時1ドルが360円、外国への送金も自由じゃない時代で、とにかく金が無かつた。必然的にフリーマーケットに行つて古着を買つて、安いからね。それを自分たちで作り直して着ていた。オシャレとか価値観じゃなくて、必然性からなんです。器用な仲間がいっぱいいたんです。古着をカッコよく作り変えちゃうヤツとかね。そういうことをやっている、仲間意識みたいな、連帯感みたいなモノが生まれてきちゃうんだよね。これはたったの1ドルで買ったデニムだけど、どうだ…みたいな、ね」。

本業とか関係なく「質屋」が好き

店内にあるのは、自分で買ったモノばかりだという。時計やカメラ、書籍、服、アクセサリー、人形、等々、とにかくいろんなモノが並んでいる。「僕は、ジャンルとかモノとかにこだわってないんですよ。どれもみんな、自分基準。あれが好きとなれば、銘柄がどこか関係ないんです。年代とかでモノ買わないから、

吉田克幸の ヴィンテージの愛し方 LIKE A ROLLING STONE

◎写真/油井康司(WPP) ◎文/吉野文敏 ◎取材協力/Porter Classic

日本が誇る「カバンのカリスマ」、吉田克幸氏が小さな質屋を開いたというのは驚きのニュースだった。10代後半からの海外放浪を経て、様々な人と出会い、己の感覚を磨き続ける事で発表された「名品」の数々、日本人初の「ニューヨーク・デザイナーズ・コレクティブ」メンバーへの選出、そして2007年60歳にしての新たなブランド「Porter Classic」の立ち上げ。さらには、この「PAWN SHOP」という質屋の開業。転がる石のように、ひとつところに留まらない氏に、質屋の店主の椅子の座り心地を聞かせてもらった。

要は、好き嫌い。好き嫌いだけ。買ったから、そういうモノの細かい説明を求められても困っちゃうんだよね。要は、好き嫌い。好き嫌いだけ。買ったから、そういうモノの細かい説明を求められても困っちゃうんだよね。

「もう、この歳になるとね、これは売れ筋だとか、そういうのはなくなっちゃう。もうないというワケ。」「もう、この歳になるとね、これは売れ筋だとか、そういうのはなくなっちゃう。もうないというワケ。」「もう、この歳になるとね、これは売れ筋だとか、そういうのはなくなっちゃう。もうないというワケ。」

「僕はカバン屋でイキイケだった頃は、相当生意気でしたからね笑。今ももちろん、カバンだけじゃなくて、いろんなモノが好きなんです。これが本業とか言うことよりも「好き」なんです。これ（質屋）をやらしてもらってる今は、もう感謝、感謝です」。

「僕は目の前で職人さんが仕事をしている、そういうカバン屋で育つたんですよ。カバン屋になつてからは、外国でカバン屋を覗いたことがない。いいなと思う材料が見つければ、これはどこその誰さんに頼んで…僕が作るというより職人さんが作るんですから…見つけた素材に合う職人がアタマに思い浮かんだ時点で、形はほとんど決まっています。けれども、ここに並んでいるモノについてるのは自分が作ったモノじゃないですから、四季折々の美しい風景を眺めるような感覚。その時代背景とかも含めて、違う業界の人たちがつくったモノの良さ、もつと言えは尊敬ですね。そういう楽しさがあります。僕の好きなのは1850年〜1950年の100年間。この

あと10年生きるかもわからないです（笑）。迷惑が掛からない範囲で、好きなモノ集めて、別に売れなくても…

UNCLE SHOW'S ONE-MAN SHOW

アンクル・ショーの
誰も知らない
リーバイス



上の工具のおじさんは、リーバイスの宣伝用のマネキン。これをどこで発見したか、知りたいでしょう。実はこれ、日本のデニムの聖地・岡山県は児島に建つジーンズミュージアムに展示されてたんだ。パンツの裾の方にだけ色が残った感じが、なかなかいいよねえ。



まったく、こんでもない話だ。原稿依頼の電話ももらったとき、思わず耳を疑った。なにせ「誰も知らないリーバイス」である。たしかにタイトルはキャッチーかも知れないが、そんな記事は給付事としていいだろうか。これまでさまざまな雑誌や書物であらゆることが書き込まれている素材もある。そのご自身がリーバイスがとつもない魅力を持ったジーンズメーカーであるかを物語っているわけで、できるのならトライしてみたいテーマであることは間違いない。でもね、あまりにも高いハードルで、「正直に言うと最初はやっぱりと諦めよう」と考えていた。ところが、ボクが過去にさんざんリーバイスに関して執筆していることや、著作ものになっていることを持ち出して、さんざん持ち上げるとはなんだ、情ないことに、すっかり編集部は丸め込まれてしまったのだ……などと多少言い訳めいた書き出しで、知られざるリーバイスの秘密に迫っていきたくて考えているのだが……。

機部正春を知っているだろうか。とりあえず、このあたりからはじめましょう。もしも機部正春を知っているなら、あなたにはかなりのところか、恐るべきリーバイス・トラウス準断言できる。お見せいたします。

リーバイス・トラウスといううかブルジョア全体の象徴ともいえるのが、トウ・ホースマークである。J.H. W. まででもないだろう。一本のフル・ジーンズを、二頭の馬が引く張って裂けて、裂けない絵柄である。これほど簡潔に雄弁にブルジョアの魅力を物語る図柄もまたとは無いだろう。全談だが、トウ・ホースマークの両側の馬車の代わりに象が描かれていたり、汽車だったり、バイクだったり、フタだったり実にさまざまな変種が登場している。それはリーバイスへのリスベクトを表現しているといつてもあるが、いかにこのマークのアイディアが優れていたかを物語っているともいえるだろう。

一九〇五年、リーバイス・トラウスはそのトウ・ホースマークを日本で登録商標するのである。それはもちろん受理された。というのはそのような図柄が、他には無かつたのだから。受理されたのは明治三十八年七月七日のこと。第三三六類での登録商標項目としては、「オーヴァーオールズ、ジャンパース、ブラウセス、上衣、ズボン、チョッキ、前重」である。ボクは今、外国商標登録簿を見ながら書き写している。多少細かい表記があるのは平にお赦し頂きたい。それに

「これがハンティングジャケットのアイデンティティ」

ハンティングジャケットの解剖学1

©写真/熊谷義久(WPP)



03/HINSON (1950年代)
ハンティングジャケットのブランドとして名高いヒンソン社製。シリコンコーティングしたダック生地が独特の風合いを持っている。裏面のゲームポケットは全部広げると数倍になるという大きさ。フロントポケットの内側には銃弾専用ポケットが設けられている。襟元はコーデュロイ素材で防寒性を高めている。価格1万9800円@CA



02/Eddie Bauer (1970年代)
ハンティングからフィッシングまで幅広くフィールドで使うことができるユーティリティ仕様。ポケットは防水仕様で、フラップも広くとられているので多少の雨なら気にしない程。フロントや背面のゲームポケットにはファスナーが設けられているので使いやすい。洗練されたスタイルはエディー・バウアーならではの作り。価格7800円@CA



05/SEARS (1960年代)
ゲームポケットに支障がないようにと、背中の上の方にアクションブリーツが付属している。右肩とジャケットの裏側に同型のガンパッチが設けられており耐衝撃性を重視。反動の強い銃を使う際には最適。シェルスペースには、同系色のゴムを採用。シェルがポケット内に落ちないように凹型のステッチが入っている。ゲームポケットは防水タイプ。価格4095円@サイダー



04/Ralph Lauren (1980年~1990年代年代)
冬季のハンティングジャケットを意識したのか、珍しいオールホワイトのハンティングジャケット。ロング丈で前面には大型の2連ポケットが設けられている。脇下のハトメは砂抜き、あるいはベンチレーションとしても機能する。背面に大型のゲームポケットを装備。価格1万3545円@サイダー



07/Bulleye Bill (1960年代)
カラー、デザインともにクラシカルなスタイルのハンティングジャケット。襟は太めのコーデュロイ仕様となっている。防水タイプとなっているので不意な雨でも問題なし。背面のサイドには典型的なゲームポケットがある。獲物や地図などを入れて行動するに適した大容量タイプだ。価格1万395円@サイダー

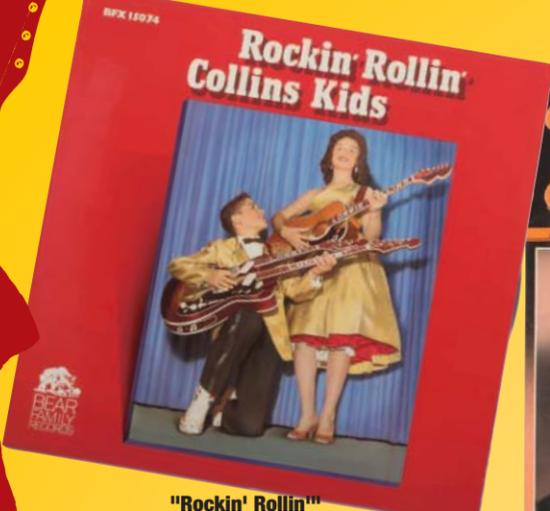


06/TRAILBLAZER (1960年代)
オーソドックスなタイプのハンティングジャケット。フロントポケットの内側には小物の他、銃弾もセットできる特殊仕様となっている。裏地はチェック柄でお洒落。一見するとシンプルだが、ゲームポケットもしっかり設けられている。襟は緑色のコーデュロイで保温性もバッチリ。価格5900円@Clothing

我々が古着屋などで目にするハンティングジャケットはすくなく男っぽくて格好良い。だが、本来ハンティングジャケットという存在はファッションありきのタウンユース服ではない。あくまで、狩猟を快適にするための形状、素材、機能を追求してきた結果、生まれに应运じて生まれたジャケットでもある。そんなハンティングジャケットの特色を色濃く表している、いわばハンティングジャケットのアイデンティティとも呼べる存在が背面の「ゲームポケット」である。ゲームポケットの「ゲーム」とは今では遊びの意味も強いが、本来は野生動物、とくに野鳥や魚を指す言葉であった。つまり、ここは狩った獲物を入れておくためのポケットなのだ。たいていは背面に付けられた大型のポケットで、背面の左右どちらからでもアクセスできるようになっている。時代にもよるがボタンか、ファスナーによって開閉が可能となっている。そして、内部はウォータプルーフ（防水仕様）になっているものも多く、中にはブラッドプルーフ（防血）を謳うものまである。ちょっと生々しいが、狩ったばかりの獲物を入れるから当然と言えば当然の機能でもある。そんなワイルドなところが、ハンティングジャケットの男らしさでもあるのだ。ちなみに、19世紀後半には既にゲームポケットの原型が考案されている。現代的なバックパックが登場する遙か前のことで、ハンターたちはここに獲物を入れることで両手をフリーにすることができた。現代ではあまり意味をなさなくなったゲームポケットだが、かつてハンターたちが山野を自由に動き回ることができたのもこの機能のお陰。ハンティングジャケットの核心たるゲームポケットに注目してもらいたい。

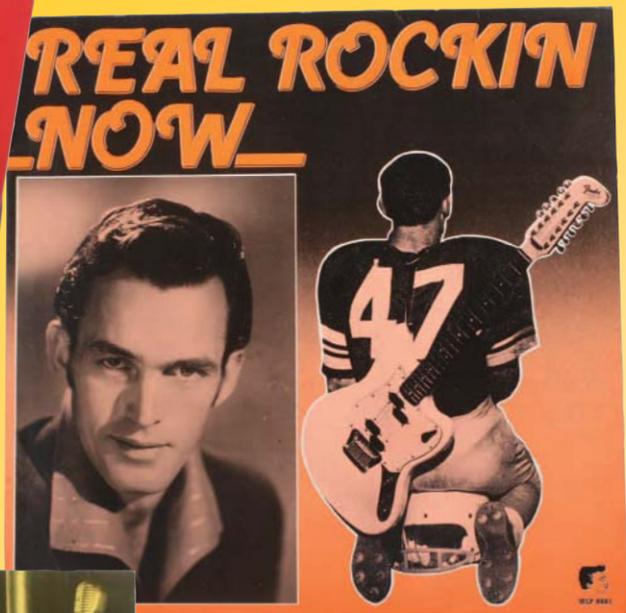


©EXPLOSION From OUTER SPACE 03-3468-9799
http://explosionfromos.web.fc2.com/



"Rockin' Rollin'"

ドイツのBear Family Recordsからリリースの赤盤二部作。師匠である名手JOE MEPHISを受け継ぐ軽快なギターワークと姉弟の絶妙なハーモニーは当時も絶大な人気を誇ったCollins Kids。後の兄弟系ユニットのパイオニア的存在！ 価格2394円



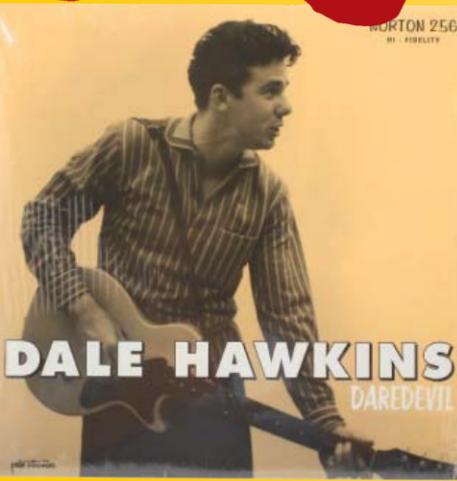
"REAL ROCKIN NOW"

アマフト選手がフェンダーを担いで後ろ向きの摩訶不思議なジャケットは50年代のシュールレアリスムなのだろうか？ 老舗のWHITE LABEL作品。内容は果てしなくマイナーながらワイルドロカビリー多数収録！ 価格2184円



"One Nighter Blues"

B.B.と言えば「ルシール」(由来はある女性の名前から)というギブソンのES-335に酷似しながらも独特の重い、骨太なサウンドが特徴のギターを愛用していた。本作は未発表曲が中心ながら気迫が伝わる一枚。ACE RECORDS編集作。価格2499円



"DAREDEVIL"

'60年代から'70年代に多くのバンドがカバーした「Suzie-Q」のオリジネーター、DALE HAWKINS。SWAMP ROCKのギターリズムの祖とも言われた。ティーン時代に組んだバンドではギターにJAMES BURTON、ドラムスはD.J. FONTANA！ 価格1869円



"HOUSTON CAN'T BE HEAVEN"

テキサスのブルースシンガー兼ギタリスト、PEPPERMINT HARRISの56年作。バックやヴォーカルを盛り上げることで達人であった情熱のギタリスト、ALBERT COLLINSを招いて録音したホーンを交えたJUMPIN' BLUES！ JUMPに泥臭さも加わったR&Bの名作！ 価格1974円



極僅かな情報から、いかに想像力を掻き立て、自分のギタースタイルを確立していったのであろう？

それはまさに一人一人がオリジナルであり、パフォーマンスや楽曲で競い合っていたレベルな時代なのである。

日本でいう戦国時代の様なものだったのかもしれない。

そんな彼等、アーティスト一人一人が“ロックなブツ”なのではないだろうか？

1950年代、あらゆる偶然と見えない力(?)の化学反応によりROCK'N'ROLLが生まれ、商業的にも大成功を収める事の出来た黄金時代。

白人音楽であるカントリー、そして黒人音楽であるブルース、そこにティーンネイジャーによる新たな時代の幕開けにより、派生した音楽が“ロックンロール”である。

この化学反応から数え切れない程の多彩なアーティスト達が誕生した。

そのスタイルは現代の音楽、ファッション、ライフスタイルのルーツであり、基盤となっていると言っても過言ではない。

その理由として、1950年代の音楽からインスパイアされたティーンネイジャー達が1960年代中期より更に進化をとげ、ロックンロールの粹は自由な意味でエクスポージョンしていった。

その後、現在に至るまで贅肉の無い50'sサウンドを基調としながら、スタイルを変え進化し、時に退化も求められながら存在し続けている。

ロックンロールのフォーマットとしてはCD、もしくはダウンロードが主流となった現代においても、レコードの価値は見直されており、特に7インチシングルに至っては欧米各国を中心に再発ラッシュが継続的に行われ、大変な盛り上がりを見せている。

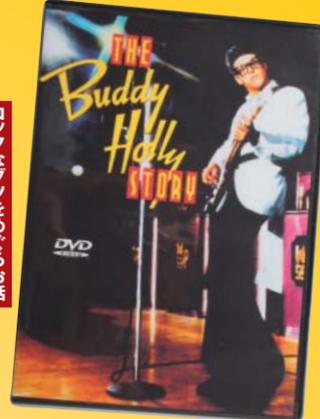
近年でも新たにオーセンティックなロックンロールの音源が発掘され、リリースされ続けている。

どれも皆、まさにIT'S THE REAL MCCOYなのだ。

今回、この特集で紹介するのはメジャー、マイナー問わず、レコードジャケットにギターを携えた、ギターファンなら思わずジャケット買い(死語?)をしてしまう程のクールなレコード、そして好内容なDVDである。

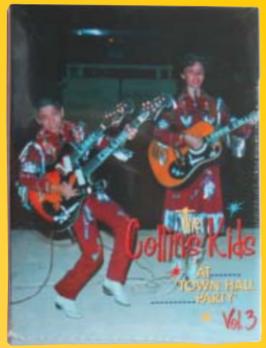
当たり前なの事なのだが、今から約半世紀以上前のロックンロール黎明期を支えたギタリスト達は、手本となるアーティストの映像を現代のようにYoutubeやDVDで観る事は出来なかった。

ロックンロールの黄金時代



"THE Buddy Holly STORY"

1978年製作、あのアカデミー賞で作品賞にノミネートされたBUDDY HOLLY初の伝記映画。ここでは語り尽くせないくらい功績の大きいレジェンド。白人で初めて黒人音楽の殿堂、アボロシアターで演奏するシーンは鳥肌立ちまくりの名場面である。価格2625円



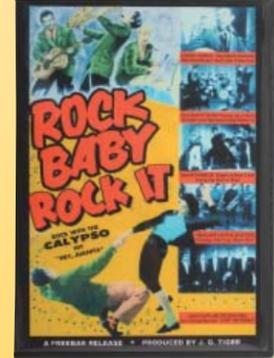
"The Collins Kids AT TOWN HALL PARTY"

弟LARRYと姉ORRIEのCOLLINS KIDSが伝説のROCK'N'COUNTRY TV SHOW[TOWN HALL PARTY]にて人気を博していた59年総集編映像！ 弟はこの時まだ15歳ながら天才的なギターテクニックを披露、癒し系美女の姉LORRIEにも男性諸君は注目。今尚現役である。価格3990円



"Rare & Great Performance"

後世に多大なる影響を与えたロックンロールの神の子"GENE & EDDIE"の貴重な映像集！ TOWN HALL PARTY出演時の映像に加え、GENE VINCENTは60年代のイギリス公演、更には70年代の映像も収録。その他、BUDDY HOLLY、BO DIDDLEYなどの映像も収録した美味しう一枚。価格2625円

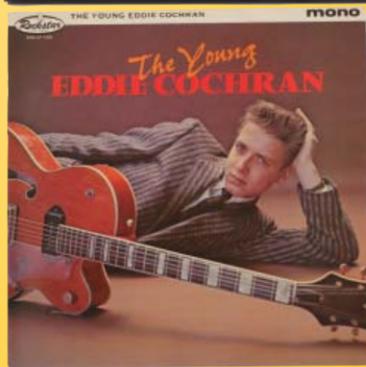


"ROCK BABY ROCK IT"

JOHNNY CARROLLのワイルド過ぎるステージング(不思議な前髪に注目!)が見所な57年の映画作品。他、SUN RECORDSにも在籍したピアノブルースマン、ROSCO GORDONの本人映像も超貴重！ 当時では若干マイナーなアーティストが見れる貴重作！ 価格2625円

"Return of the Cincinnati Rocker"

'50年代前半より地道な活動でソングライターとして名を馳せ、RUSTY YORKらトップミュージシャンとも共演したシンシナティの隠れた名ギタリストBill Watkins。代表作[Red Guitar]収録！ 価格1869円



"The Young"

相棒の[GRETCH 6120]と恋人のように添い寝するEDDIEの55年~56年 & COCHRAN BROS.期の代表作を編集したタイトル通り"YOUNG"な作品。EDDIEが最初に録音したバラード曲「Yesterday's Heartbreak」も収録。ファンには是非触れて頂きたい作品。価格2079円

